

授業科目(ナンバリング)	介護過程 I (介) (DB203)			担当教員	浦 秀美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の 類 型
<p>介護過程とは、介護による利用者の生活支援活動に不可欠なものであり、介護の専門的知識・技術からなる介護実践の全体像のことである。他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程があるということを理解する事が本演習のねらいとなる。また、本演習は、介護に関する専門知識や技術を統合し、介護実践に活かしていく思考過程であり、介護実践に必要なものであることを理解することも目標となる。</p> <p>本演習は、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。</p> <p>本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている（介護福祉士としての）専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。</p>							④⑤⑥⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況に合った支援、情報収集項目を説明できる。</li> <li>・介護過程の流れや留意点を説明できる。</li> <li>・介護過程が専門的知識・技術からなる介護実践の全体像であることを説明できる。</li> <li>・介護計画に必要な情報を抽出する方法を説明できる</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認テスト</li> <li>・課題レポート</li> </ul>	40% 20%
情報収集、 分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアワークで相手の話を聴き、相手の望んでいることを解明できる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度・参加度</li> </ul>	15%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の行動計画の進捗状況について、定期的に整理し、実施後の評価について表現できる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告会レジュメ</li> </ul>	10%
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例やペアワークによって相手のニーズを把握し、他者の課題解決に向け寄与できる。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告</li> </ul>	15%
多様性理解力							
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポート（20%）：演習時の資料ともなるため、未提出や提出遅延は減点の対象とする。評価後は授業内でフィードバックする。</li> <li>・確認テスト（40%）：15回目に実施する。ADL/IADLや情報収集の視点を述べるができるかを評価する。評価後は模範解答集を受講学生に配付し自己採点を行ってもらう。</li> <li>・報告（15%）：14回目に実施する。本演習で明らかにした自分自身の目標と目標達成に向けた実施計画、計画にそった行動、行動の評価、残された課題（今後の課題）をまとめたものの発表を評価する。また、最終報告に向け、11回目の授業で中間報告したものも併せて評価する。</li> <li>・報告会レジュメ（10%）：15回目の報告時に使用する報告書を作成する。誤字脱字、提出期限、提出方法等を守れない場合、減点の対象となる。</li> <li>・授業態度・参加度（15%）：報告時の報告者への意見や感想、まとめでの自分の意見の表出にて評価する。</li> </ul>							
授 業 の 概 要							
<p>介護過程について、総論的に学ぶ。したがって、介護過程の意義やアセスメント、計画、実施、評価と介護過程の展開や理論について学ぶことが中心となる。</p> <p>また、事例や自分自身の身の回りの出来事や取り組みなどを適宜活用していく。個人ワーク、ペアワーク、グループワークを展開させ、情報を収集し整理し立案、実施、評価し、報告することも盛り込んだ授業を予定している。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座9『介護過程』中央法規出版株式会社</p> <p>介護福祉士国家試験受験ワークブック編集委員会（2018）『介護福祉士国家試験受験ワークブック 2019 上』中央法規出版株式会社</p>							

指定図書：介護福祉士養成講座編集委員会（2019）最新介護福祉士養成講座9『介護過程』中央法規出版株式会社

授業外における学修及び学生に期待すること

利用者の生活を理解したり把握したりすることが重要です。しかし、まず現在の自分自身がどのような生活を送っているのか(学内・学外)、一日をどのように過ごしているのか、どのように過ごしたいと願っているのか等を意識的に捉えるようにしてください。

グループでの事例検討も実施予定ですので、主体的な参加姿勢で授業に臨まれることを期待します。また、報告・連絡・相談を積極的に行えるようになることも期待しています。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	介護過程とは何か <u>介護過程の意義と基礎的理解①</u>	介護過程の意義、目的・目標について学ぶ。	予：テキスト冒頭のまえがきを読む 復：配付資料の再読
2	介護過程とケアマネジメント過程の共通点と相違点 <u>介護過程の意義と基礎的理解②</u>	介護過程（介護計画）とケアマネジメント過程（ケアプラン）のそれぞれについて学び、共通点並びに相違点について考える。	予：「ケアマネジメント」の意味を考える 復：配付資料の再読
3	利用者にとって適切な介護とは	生活支援としての介護と単なる介助について考え、利用者にとって適切な介護を意識的に実践することについて学ぶ。	予：「介護」という言葉が示す意味をまとめる 復：配付資料の再読
4	利用者の生活に目標・目的を持つことの意義	学生の生活に照らし合わせながら、利用者の生活に目標・目的を持つことの意義について考える。	予：現在の目標を考える 復：配付資料の再読
5	<u>介護過程の展開の理解①</u>	利用者の理解、生活支援の目標・目的を捉えるための情報収集について学ぶ。	予：情報収集の範囲調べ 復：配付資料の再読
6	<u>介護過程の展開の理解②</u> <u>介護過程とチームアプローチ①</u>	利用者やその生活に関する事実を正確に把握するため、情報収集の留意点について学ぶ。	予：事実を把握する手法を考える 復：配付資料の再読
7	<u>介護過程の展開の理解③</u> <u>介護過程とチームアプローチ②</u>	利用者の能力や生活等の把握のために、多方面（協働する他の専門職）から情報収集することについて学ぶ。	予：利用者の能力を把握する手法を考える 復：配付資料の再読
8	<u>介護過程の展開の理解④</u> <u>介護過程とチームアプローチ③</u>	情報収集とアセスメントについて学ぶ。情報から何が捉えられるのかについて考える。医療モデルや生活モデルの考え方について学ぶ。	予：「医療モデル」「生活モデル」の意味調べ 復：配付資料の再読
9	<u>介護過程の展開の理解⑤</u>	生活支援課題、目標の捉え方を学び、課題を見つける。	予：生活支援方法を考える 復：小テストの復習
10	<u>介護過程の展開の理解⑥</u>	目標に沿った実行可能な介護計画の作成について学ぶ。	予：計画を実行するために大切なことを考える 復：介護計画作成
11	<u>介護過程の展開の理解⑦</u>	介護実践の具体的な場面の事例から、介護計画の実施について学ぶ。 実施計画の進捗状況の中間報告を行う。	予：中間報告発表原稿作成 復：発表の振り返り
12	<u>介護過程の展開の理解⑧</u>	評価について、評価の目的や内容、方法について学び、評価の必要性を理解する。	予：評価の目的を調べる 復：配付資料の再読
13	介護過程の実践的展開①	介護過程が利用者の日常生活の中でどのように利用されているのかについて学ぶ。	予：介護過程を日常生活に活かす方法を考える 復：小テストの復習
14	介護過程の実践的展開②	自立に向けた介護過程の展開の実際を事例から学ぶ。 利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際を学び、体調変化時の介護展開を理解する。 自分自身の行動計画の評価を含めた報告を受講者の前で行う。	予：体調変化時の計画変更の重要性について考える 復：事例内容と展開について振り返る
15	確認テスト 介護過程の実践的展開③まとめ	60分程度の確認テストを実施する（解説含む） 自立に向けた介護過程の展開の実際についての学びを振り返る。	予：発表原稿の作成 復：発表の振り返りと評価